

「どんなことでも出来る」

～ 法則から成長する実 ～

ヨシュア1:1～9

黄金比率とフィボナッチ比率、聞き慣れない言葉です。サンピエトロ寺院の建築も十字架も、この世の植物も全て黄金比率とフィボナッチ比率が当てはまるということが分かっています。この法則によって自然は生態系が整って最も美しくあるようにできています。地球も太陽との距離も定まった法則によって公転しています。神様は天地万物を法則を持って創造されたのです。科学で証明できていることはごくわずかですが、天地万物は奇跡の連続によってできていることを実感します。神様によって創造された私達にもこの法則は当てはまります。物を投げると放物線を描く、上昇時と下降時の速度が同じである落下速度の法則のごとく、良い物を投げると良い物が、悪い物を投げると悪い物が降りかかってくるのです。私達は生活の中でどれだけ良い物を投げることができているのでしょうか。創造された天地万物は全て神様の定めた法則によってすばらしく生きています。全てのことの意味があり、お互いの生態系が素晴らしく保たれるように共存している中で勝手なことを行っているのは人間だけなのです。私達も法則の中ですばらしく生きていくことを見失わずに生きていたいと思います。

■ どんなことでもできる、信じていますか？

「それは人にはできないことですが、神はそうではありません。どんなことでも、神にはできるのです。」(ピリピ 4.13)
人は神様に似せて造られ、地を任せられました。神様の品格と性質を私達は持っています。しかし、私達の中にある罪によってその品格と性質は死んでしまいました。その品格と性質を私達の中に取り戻すためにイエス様が死んでくださったのです。何かをしようとする時に妨害しようとする悪い声を聞くことがあります。それでも悪しき者が悪くしたわけではありません。悪い声に聞き従い、悪い決断をしてしまうのは私達自身なのです。「見よ。主の御手が短くて救えないのではない。その耳が遠くて聞かえないのではない。あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ。」(イザヤ 59.1-2) 神様は私達に自分で決めることができるという性質を与えたにも関わらず、同じ罪に生きようとしてしまうのは私達自身なのです。良い種を蒔けば良い実を刈り取るということを私達は知っているのですが、良い種と雑草の種をいっしょに蒔いてしまうと、後で雑草を抜かなければならなくなるのです。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。…あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」(マタイ 22.37-39) この戒めを守っているのでしょうか。自分自身を愛せていない人が多いのです。自分がダメだと思っている時でも私達の天の父は私達のことを素晴らしいと言ってくれています。「できない」「だめ」「無理」が口癖になっていませんか？神様の平安の中に無理なことはありません。心騒ぎさえしなければ私達はできるのです。アスリート達が緊張して実力が出ないことも同じことです。

■ この質問を自分自身にしてみてください

- ・絶対に失敗しないとわかっているとしたら、どんな夢を持つだろうか。
- ・経済力が無制限にあるとしたら、どんなゴールを設定するだろうか。
- ・何でもやってのける能力があるとしたら、どんな計画を立てるだろうか。

私達には全てを持っている神様がともにいて、私達のしようとしていること全てを祝福して下さいます。何でもできるのに「お金がない」「時間がない」「能力がない」と理由をつけ、やらないと決断するのは自分自身です。神様は信じて行えば必ずうまくいくと約束して下さっています。

■ 1. 自分に死ぬ!! 「無理」に死ぬ

私達が自分をダメだと思うのは、自分を自分の物と思う自我が生きているからです。自分が自分のものである、自分が中心であると勘違いしているからです。洗礼を受けてクリスチャンになった時、自分に死ぬと決断しました。クリスチャンとはキリスト者、つまり自分が中心ではなく、神様を中心に生きている者なのです。

「まことに、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てたもので、その百倍をえない者はありません。」(マルコ 10.29-30)

自己中心な自分を捨てなければ得ることができないのです。自分で無理と決めないで、御言葉から法則を見出し、その法則にのっとって生きましょう。

■ 2. ことばと品格と品性

自分を捨てた後も過去の自分の性質は残っています。辛いことや苦手なことに追い込まれた時に過去の価値観やルールが出てきてしまうのです。ですから神様の品格と品性を持たなければなりません。

御霊の実は愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制の9つです。私達に正義はありません。正義は神様だけが持っていて、私達と神様が向きあうためにあるのであって、人を指さしたり、裁くためにあるではありません。正義を武器として人に向けてふりかざし、「私は悪くない」と言う姿に周りの人が品格と品性を感じるでしょうか。

心に憎しみを持つてはなりません。ことばと品格と品性を守りましょう。愛すること、喜ぶこと、平安を保とうとすること、これらは全て自分で戦って得るものなのです。品格と品性を持っている人が特別なわけではありません。過去の自分の性質と戦うか戦わないかの差なのです。

また、私達が置かれた場所で正しい行動をするためには神様の知恵が必要です。置かれてここは嫌だな…と感じる場所、その場所は知恵を得て、私自身を磨くために神様が用意して下さった場所です。自分の経験による知識ではなく、神様の知恵を求めましょう。

「上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、またあわれみとよい実に満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。」(ヤコブ 3.17-18)

■ 3. 見えないことを大切に!!

私達は目に見える結果ばかりに目を向けてしまいがちです。心の中に思い描く夢は目に見えません。信じることは見えません。信じることさえできれば神様が力を与えて下さって、たとえ能力がなくても必ずうまくいきます。できないと言って見えないことから目をそむけてはいけません。見えないことが大切なのです。何を見ず、また、聞かずとも神の御約束に立ち、歩んでいきましょう。「私たちは、見えるものではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」(IIコリント 4.18)